

日本産口脚類(福田)

略々相等しくして長さの五分の三位なり。

長方形をなし前後兩側角は共に圓みを帯び前側角は前方に突出すれども後縁は略々直線狀なり胃溝も亦大略直線をなして走る。

胸部第六節以下の八節は其幅略々相等しくして甲殻の幅より稍大なり、腹部第五節迄は背面平滑兩縁に沿ひて隆起線あり後側角は通常第五節に於ては角張れり、第六節は通常中央に隆起を缺く通常幅狭き三對の隆起線ありて各々棘に終れども中間の一對は稍短かくして其棘は他の二對の棘の先端の後縁を超ゆるに反して辛うじて之れに達するに過ぎず。

尾部の最大の長さとは幅とは殆んど相等しくして全長の七分の一を算す、中央には半球形の突起ありて其上に五個の狭くして直線狀をなす隆起線あり、其中央の三條は皆棘に終れども兩側の二個は短かくして棘を具へず。なほ前縁に近き所に三角形の隆起一對あり中央線と前側角との半途に位置す、邊緣には六個の棘あり各々隆起線を有す亞中央線は最大にして長く終端に動棘あり之れより中

央線に至る迄左右各々十二個乃至十四個の微小棘を列生す、又亞中央棘と間棘との間には二個の小棘齒あり側棘は短かくして著しからず。

尾脚基節の突起中外方のものは内方のものより稍長く基部の内縁に圓き齒を具ふ外肢第一節は第二節の二倍以上の長さを有し邊緣動棘は其數十一二個なり。

色、アルコール漬標本にありては通常全部一様の灰白色尾節前縁の三角形の突起の内側には通常一個づゝの小黒點あり。

産地、沖縄糸満附近(雌二、箕作教授、池田理學士) 同中頭(雌一、西常央氏) 同那覇(雌二、宮島博士) 小笠原父島釣濱(雌一、弘田理學士關口氏) 同島スサキ(雌二、同上兩氏)、分布、セーシル島、プロエダム島、ロツマ島、ミンダナオ等。

●日本内地産白蟻

理學士 大 島 正 滿

(明治四十一年十一月十一日受領)

我國に白蟻を産する事は昆虫學者諸彦の熟知せらるゝ事にして事新らしく論ずべき事項には非ざれども本邦に於

て其種名を明にし精細に之を記載せられたるものを發見せざるを以て予が得たる材料に就きて以下少しく述ぶる處あらんとす。

日本に白蟻を産するや否やは二百有餘年前より歐米に於て論争せられたる問題にして最も古く之を記載せるを獨逸の Kämpfer氏となす同氏は一六九〇年より一六九二年迄我國に住し諸種の昆虫類を研究せるが其日本産害虫報告中に白蟻を産する事を明記せられたり次に之を記せるは Dr. Hagen が一八六八年其 Monographie der Termiten 中の *Hodotermes japonicus* なる名を與へて一の成虫を記載せるがこは Coleoptera の仔虫若くは異常なる *Formicidae* の或る種を誤まり記せるものなる事は諸學者の已に論断せる所なりとす。

一八七三年より一八七六年に亘りて Dr. Hilgendorf の我國に來遊するや帝國博物館より北海道及び本島に於て採集せられたる白蟻の標本を分與せられて之を記述せるが其材料は幼虫、ニンフ及び兵蟻より成り成虫を缺如せり次で Dr. Doderlein は東京灣沿岸の一小島浮島に於て腐木

日本内地産白蟻(大島)

中に之を發見し次の如く記載せり。

幼虫、體長二乃至十一ミ、メ、

成虫、頭端より後翅の先端に至る長さ一九ミ、メ、

尙他に兵蟻並びに職蟻を捕へ且つ成虫の *swarm* するを見たる旨附記せられたるが之等の報告により我國に白蟻を産する事は歐米諸學者の認識する所となれりと雖も未だ其種名を明にせざりしが一八八五年 Kolbe 氏の學術的研究により初めて其精細なる記載を得るに至れり同氏は前記 H 氏と D 氏記載の種は等しく朽木に住する點は一致すれども其體長に於て著しく相違し H 氏の種類は遙に小形なる事を發見せり會々 K 氏の採集のニンフ及び兵蟻は D 氏の種類に一致したるが研究の結果其新種なる事を確め之に *Termes speratus* なる名稱を與へたり同氏は前記二氏の發見せるものは別種にして日本には二種の白蟻を産するに非ずやと附記せられたるが爾來本邦に於て特に白蟻に注意を拂はれたる専門家なかりしたため此の問題を放擲せられ只僅に松村博士によりて *T. speratus* の存在を確證せられ尙又 *Calotermes* に屬する *Sammashiroa* の發

日本内地産白蟻(大島)

見ありしに過ぎざりしが予は幸に他の一種をも採集し得たるを以て簡單に其記載をなす事とせり。

Termites speratus Kolbe.

和名チャノキシロアリ、

1885. *Termites speratus* Kolbe. Berl. Ent. Zeits.
p. 145, pl. 6.

雄 體は暗褐色にして頭部は黒味を帯び稍々光澤を有す
前胸脛及び蹠は淡黄色を呈し觸角は褐色なり翅は淡褐色

頭端より翅の先端に至る長さ 九、ミ、メ

體長 四、ミ、メ

前翅を開張せる長さ 一六、ミ、メ

觸角は十七關節よりなり第三節最も短く第二節之に倍す、單眼と複眼との距離は後者の直径より大なり。

前胸は稍心臟形を呈す幅は長さの $\frac{3}{2}$ 倍す其四隅は圓味を帯び前縁の中央に凹入す其後縁の中部又少しく前方に凹入す、前翅痕は後翅痕より大なり。

前翅の翅脈中、*costal* 及び *radius* の二者著しく太く後者は前者に近接して走行す *median* は *radius* より *cubitus*

に近く且つ極めて複雑に分岐す。
後肢は辛ふじて體の後端に達す。

雌、體長、 五、ミ、メ

兵蟻、體長、 四、ミ、メ

大顎は暗褐色を呈す頭部は卵黄色なり胸部及び腹部は灰白色。

頭部は長方形を呈す長さ一・六ミ、メ、幅〇・九ミ、メ、觸角は十三乃至十六環節より成り第二節は第三節より長し上唇は圓錐形にして先端尖り大顎の半ばに達せず大顎は長さ一・ミ、メ、に達し洋刀狀なり即ち幅せまく尖りたる先端は稍内方に屈曲し内側には毫も齒せず咽頭及び前胸の形は次に記す種類に酷似す後肢は辛ふじて體の後端に達す、*abdominal papilla* を有せず。

職蟻、體長、 四、ミ、メ

頭部は淡黄色、胸部及び腹部は乳白色なり。

觸角は十四環節より成り第二及び第三節は其長さにて殆ど相等し、前胸は半月形を呈す。

分布、Kolbe 氏は江戸加賀屋敷即ち本郷大學附近に於て

之を得、鳥類採集を以て有名なる Blakiston は一八七四年之を函館に於て採集せる事記載に見ゆ松村博士は氣仙沼及び札幌に於て之を得られたるが前記の事實を附合せるを見るべし又驚くべきは今回臺灣臺北に於て予が此の種を發見せる事實にして目下予が庭前の一木を蠶食して枯死せしめつゝあるもの之なり東京と臺灣との連絡は未だ明ならざれども此の種は南は臺灣より北は札幌に至る間に散布するものゝ如し。

Termes flavipes Kollar.

和名キアシシロアリ

1837. *Termes flavipes* Kollar. Naturg. Schradl. Ins. p. 411.

1839. *Termes flavipes* Burmeister. Handb. Ent. vol. 2, p. 768.

1858. *Termes flavipes* Hagen, Tinn. Ent. vol. 12 p. 182.

1861. *Termes flavipes* Hagen. Neuroptera of N. America. p. 3.

日本内地産白蟻(大島)

1879. *Termes flavipes* Faschenberg. Insektenkunde, II, p. 198.

1902. *Termes flavipes* subsp. *paraensis* Wasmann, Zool. Jahrb. vol. 17, p. 119.

雄、體栗色、頭部、暗褐色、口、脛蹠、淡黄色、觸角、褐色、翅は淡褐色にして前翅の前縁は黄色を帯ぶ。

頭端より翅の先端に至る長さ、 九、ミ、メ、
體長、 五、ミ、メ、

前翅を開張せる長さ、 一五、ミ、メ、
觸角は十七環節より成り第二節は第三節の長さの二倍す
口吻突出し單眼と複眼との距離は後者の直径の長さの
相等し。

前胸は腎臟形を呈し前縁は中央部稍凹入す、前翅痕は
後翅痕より著しく大なり。

翅幅一・五ミ、メ、長さ八・ミ、メ、翅脈中、Costal 及 radius
著しく太く Median は前種を異なり radius の cubitus の
中間を走行し複雑に分岐す。

後肢は第七腹部環節に到達するのみ abdominal papilla

日本内地産白蟻(大島)

一一一

は短かじ。

雌、體長六・五ミ、メ、腹部第七環節の腹板は中央部其兩側より廣し。

兵蟻、體長五・五ミ、メ、

頭部は長方形にして淡黄色を呈し長さ一・八ミ、メ、幅一・ミ、メを有す、胸部及び腹部は灰白色なり、觸角は十六環節より成り第二節は第三節より長し、上唇は稍々楕圓形を呈す大顎の中央に達せず、大顎は長さ一・ミ、メ、を有し其形狀前種と殆ど等しきも先端稍廣し、咽頭は其下半は幅せまきも頭端に近づくに従ひ俄に膨大す、前胸は扁平し心臟形にして前縁の中央部は凹入し後縁は屈曲せず、後肢は體の後端に達せず、腹部は稍細長なり。

職蟻、體長、四・五ミ、メ、頭部淡黄色 觸角は十六環節より成り第三節は極めて短かじ、前胸は半月狀なり。

分布、此の種は北米合衆國に廣く分布するものにして伯國より傳搬せられたるものなるが現今は殆ど世界的に分布し伊太利、澳太利等の諸國にも産す、Dr. Knowler は我が國に此の種を産するものゝ如しと報告せるが予が今夏

七月二十二日小石川植物園に於て採集せるものは前記日本産として知られたる *T. spectatus* と其種を異にせるものにして種々研究の結果 *T. flavipes* なる事を確め得たり即ち嘗て Kolbe 氏の呈出せる疑問は偶然にも解決せられ東京附近には二種の白蟻を産する事確實となれり且つ又 Dödenlein 氏の記載は頗る不完全にして其要を知るに苦むと雖も同氏自ら *Flavipes* に酷似すと報告せられたるを以て東京附近に他の種類を發見せざる限り予が今回發見したるものは嘗つて D 氏の見たるものと同種なるべきを信じて疑はず此の種は新しき時代に於て米國より輸入せられたるものなるべし。

前記二種は頗る酷似すと雖も其相違の點を擧ぐれば次の如し即ち成虫に於ては前胸の形狀並びに翅脈、兵蟻に於ては大顎、上唇形狀並びに後肢の長さ、等最も注意すべき點なるが總じて體長に於て前者は後者より著しく小なり。

附記、

和名命名其他に於て松村博士の懇篤なる指導を得たるを

喜ぶと同時に材料を支給せられたる理學士川村清一氏に感謝の意を表す。

尙又各地在住の諸君にして白蟻を採集せられたる方は成るべく酒精漬として下名へ御送附を希望す、交換不苦。

臺灣總督府專賣局檢定課にて大島正滿誌す

●Gorgonaceaの科 Primnoidae

に付て (承前)

(第十八版付)

理學士 木下 熊雄

(明治四十一年十一月十六日受領)

屬 *Thouarella* Gray

前編に於て屬の記載に先だち亞屬を記載したるは著者のぬかりなり讀者諸君これを諒せよ。

然れどもこの屬は從來只前述の亞屬のみ知られたるものにして第二の亞屬 *Diplocaelyptia* は目下發表中に屬するものなるが故に前述の亞屬は實に從來の屬に相當するものなり、而してこの新亞屬が前亞屬と異なる要點は只分枝法にあり即ち二叉狀にして第二次小枝なし故にこの

Gorgonaceaの科 Primnoidea に付て(木下)

屬の性質は只この點に付て前亞屬のそれよりも廣きのみ故に今これを掲げず。

亞屬 *Diplocaelyptia* n. subg.

余の手許にある二種及び布哇島より産したる一種これに屬す、本亞屬はポリプの構造に於て實に驚く可き程前亞屬と一致するに反し分枝は全く異なり殊に注意すべきは第二次小枝の缺乏これなり。

然るに前號に於て掲げたる索引に於て明かなる如く屬 *Amphiphysis* は外層及び第二次小枝を有す然るに本年の初め或る學者によりて *Thouarella* 屬に編入せられ且つ其の中の第四群として僅かに區別せらるゝに止まるに至り然れども余の手許にある二種の形はこの事を否認して充分なるものなり即ちポリプに於ては *Diplocaelyptia* と *Thouarella* は全く同一にして第二次小枝を有する點に於ては *Amphiphysis* と *Thouarella* は相似たり今この三群の系統關係を考へるに二ツの場合あり。

(連續線は羽狀分枝、不連續線は二叉狀分枝、短橫線は第二次小枝をあらわす)